

成果指標				
成果指標	施設利用延べ人数			
指標設定の考え方	施設活用の効果の判断基礎となる施設利用者数			
区分年度	26年度	27年度	28年度	目標30年度
目標	2000	2000	1800	1800
実績	1980	1861	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	2	D
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	2	
	有効性	事業の効果	2	D
		成果向上の可能性	2	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	2	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	この施設は、中山各地域の地域振興に寄与するために建設され、地元加工組合へ指定管理しているが、人口減少に伴い、利用者が固定化している。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	3	D
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	地域資源を活用した特産品加工等地域振興に必要な施設であり、指定管理者と協調し引き続き適切な維持・管理に努める必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮る。
意見、課題	評価段階で低評価となっていることから、行政評価委員会に諮る。

行政評価委員会の答申

<p>外部評価 (行政評価委員会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域振興に必要なのは分かるものの利用者は減っている。事業は低評価であるのに説明では不可欠と食い違いがある。 ・組合員や利用回数が少ないから低評価なのか、新しい取組の芽を摘むことがあってはいけないので低評価なのか。どちらに重きを置いているのか。全部は無理でも利用度の低いところは廃止や統合を考えて改善した方がよい。 ・会費や利用料を徴収していることをどこかに書けば、バランスが取れているとか取れていないとか分かりやすい。 ・愛媛大学では県内全てでフィールドワークを行っている。連携して問題点や解決方法を模索してもらうのはどうか。 ・指定管理者が加工組合で利用者が組合員…指定管理の意味はあるのか。使いたいときに使うだけで終わってしまう。 ・事業の目的が特産品の開発であるが、できる範囲やるだけに留まっている。開発するなら他部署でやっている売る戦略とリンクすべきである。別に儲けなくてもいいというのであれば、活動をする意味はない。撤収するしかない。 ・事業の対象は市民全般ではなく、組合員であろう。 ・今の設備機器で競争開発はできない。施設を集約し、機器を整理し、やる気のある人間で儲けないと立ち行かない。 ・旧町時代の地域特性を考慮して設置されたと思うが、効果・効率性からすると多すぎる。抜本的見直しがあてい。
---------------------------	---

経営者会議の最終判断

<p>事業の方向性</p>	<p>下記の点を見直しの上、継続する。</p>
<p>意見、課題</p>	<p>補助事業での設置であり、備品等々も全て補助である。きちんとした地元との協定協約もない。備品や土地の使用料も含め、どのように地元の方にやっていただけるか、検討すること。適化法の適用の有無も調査すること。</p>